

イデアシステム株式会社

■平成24年度テーマ

高速検索機能を組み込んだハイブリッドデジタルレコーダーシステムの試作開発

■平成24年度概要

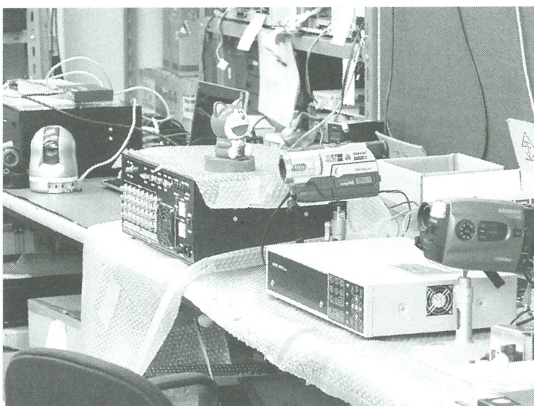
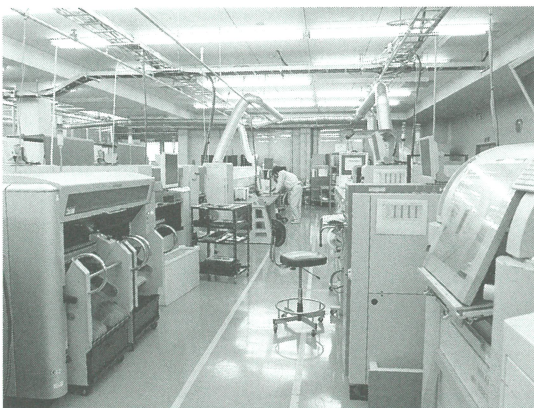
セキュリティ業界では、カメラ台数増加・高画質化により、記録データの膨大化が進み、目的の画像を短時間で検索することが課題となっている。そこで、データ管理と画像変異検出による高速検索機能を組み込んだレコーダーシステムを開発し、小売業界へ売り込むことを目指す。

■平成24年度分類

- ＜事業類型＞ 試作開発のみ
- ＜競争力強化の形態＞ ニッチ分野特化型
- ＜22分野技術＞ 組込みソフトウェア

■事業の概要と成果

画像変異検出による高速検索機能を組み込んだレコーダーシステムを開発し、膨大な記録画像の中から目的の画像を検索する時間は従来方式の半分以下を実現した。記録画像の膨大化が進む小売業界へ売り込むことを目指す。



■平成25年度テーマ

手軽に幅広い環境で利用できる移乗・移動を補助する福祉用具の試作開発

■平成25年度概要

高齢者の介護、看護において、負担の大きな移乗介助の際に介護者が腰を痛めたり、転倒してケガをしてしまうことが問題となっている。そこで、立体造形技術により、手軽に使える簡単な構造でありながら、幅広い環境で移乗介助を補助することができる福祉用具の試作開発を行い、福祉用具の利用促進と介護環境の改善を目指す。

■平成25年度分類

- ＜対象類型＞ 【ものづくり技術】
立体造形
- ＜事業類型＞ 成長分野型
試作開発＋設備投資
健康・医療

■事業の概要と成果

当初計画した構造は、その後の調査で特許抵触のおそれが発覚したため、違う方法で課題を解決する仕様の検討を行い、それぞれについて試作を行った。移乗機能を重視する仕様と、従来構造をベースに改良する仕様の二つの方向性で検討し、最終的には一次から四次試作まで実施した。開発目標の達成度については、当初の計画を大幅に見直して仕様変更を行ったため、一部の試作では目標に該当しなくなっている部分もあるが、一番の課題であった外部への干渉については、仕様を大きく見直したことにより、結果として目標を達成することができた。今回の試作によって、課題であった周辺環境や利用者への干渉は大きく改善し、移乗の際の利用者の負担も改善することができた。当初予定していた各種試験やユーザー評価を期間内に実施することができなかったが、今後も開発は継続して早期に実施し、平成28年の製品化を目指す。

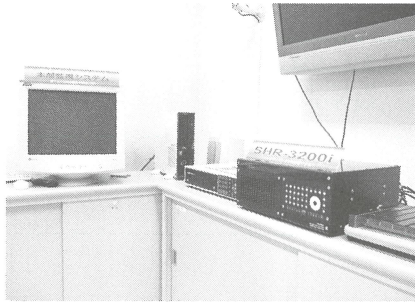
好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて
イデアシステム株式会社（岡谷市）

電子機器事業とモニタリングシステム事業を柱に、
顧客の要望に柔軟な発想で応える。

経営理念は「2.5次産業」

表面実装技術をベースに、回路設計、基板設計も社内で行い、電子機器の試作から納品まで対応する“ワンス・トップサービス”を展開する、イ



デジタルハイブリッドレコーダー
TELEC-EYE SHR-3200i

デアシステム。大手電機メーカーを始めとする電子機器の受託開発も手がけ、開発設計から量産まで対応しています。

「諏訪地域で一番最初に自動実装機を導入し、表面実装事業を開始しました」。澤宣夫社長が言う通り、当初から技術一筋の会社かと思いきや、さにあらず。実は、小林睦巳会長が創業した商社が始まりでした。「基板の土台となる樹脂を販売していました。そこに付加価値をつけようと実装事業に進出したのがきっかけで、ものづくりにシフトしたのです」と、商社時代に入社した澤社長。「当社の経営理念は『2.5次産業』。買って商売できるものはそれを使い、世の中になくはないものは自分たちでつくる、という柔軟な発想です」。商社のDNAがここにしっかりと受け継がれています。

電子機器関連事業に次ぐ、もう一步の柱がモニタリングシステム事業。特定の場所から映像、音声等のデータを遠隔地に送り、リアルタイムに監視する装置を独自開発し、販売から設置まで行っています。

同社のモニタリングシステムは、チェーン展開している店舗の集中管理システムとしてブレイク。河川・道路等の監視や防犯など官公庁向けのシステムも評価され導入が進んでいます。

3事業部門のコラボレーションをめざして

同社ではデジタル技術に対応した「まったく新しいモニタリングシステム」の開発をめざし、ものづくり補助金を活用。市販のIPカメラ（デジタル）とアナログカメラを両方利用し、多チャンネル化に対応した「ハイブリッドレコーダー（ネッ

トワークカメラシステム）」を完成させ、販売実績を伸ばしています。

一方で同社は「会長が入院した時に看護師の苦勞を見て発想した」という福祉用具の開発も手がけてい

ます。まだ「売上げの1%程度」ではありますが、移乗車イス「乗助さん」、姿勢補助手すり「楽助さん」など、独自開発製品が介助の現場で活躍しています。



自動表面実装ライン



らくらく移乗車イス
「乗助さんⅡ」

「電子機器、モニタリングシステム、福祉用具の3事業部門をうまくコラボレーションさせたい」。福祉用具の企業から電子制御の引き合いがあるなど、澤社長のビジョンはすでに実現に向かって動き始めているようです。



イデアシステム株式会社

代表者 代表取締役社長 澤 宣夫
創業 1987（昭和62）年4月
資本金 6,000万円 従業員数 64人
本社 岡谷市神明町4-1-21

事業内容 画像モニタリングシステム開発・製造・販売、電子機器受託開発・製造、高密度実装の試作・量産、システムインパッケージ開発・製造、LED販売、福祉用具製造

